

**編集後記：**今年から「天気」が原則として電子出版になりました。今までは各学会の機関誌で本棚がすぐいっぱいになってしまいましたが、今後はそういうこともなくなっていくでしょう。電子版の機関誌は冊子に比べて目に留まりにくく、読まれる機会が減るというデメリットが考えられますが、やり方次第では広く社会からの視認性を高めることができると思います。

実際、電子出版のメリットは非常に大きいです。自宅のパソコンで他分野を含む多くの文献を読み、資料を入手できます。おかげで機関に所属しない私も、それなりに研究を続けることができています（オンラインで読めない文献もありますが、幸い家から数 km のところに筑波大の図書館があり、学外者も簡単な手続きで入館できるので、大変助かっています）。

ただ、電子出版に対する不安もあります。その1つ

は、電子文献が遠い将来まで維持できるだろうか？という問題です。今でも、過去の Web 上の記事が消えることがあります（どこかに保存してあるのかも知れませんが）、大きな災害・変乱や出版社の廃業があれば、多くの貴重な電子文献がこの世から消え去る懸念があります。増え続ける電子文献を後世へどのように継承していくべきか、百年の計として考えていく必要があるでしょう。

最後になりましたが、私はこのたび「天気」編集委員を退任することになりました。これまで活動を支えて下さった会員の皆様に深く感謝致します。今後も機会があれば「天気」に投稿したいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。

（藤部文昭）